

# PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

## 続報 No.292

2020.12/23 (水曜) 16:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

### No.1778 長期継続前兆 続報 12月15日 A5終息 12月21日 CH06直前特異 認識 最も早い場合の発生 2021年03月04日±1の可能性 やや濃厚となった認識

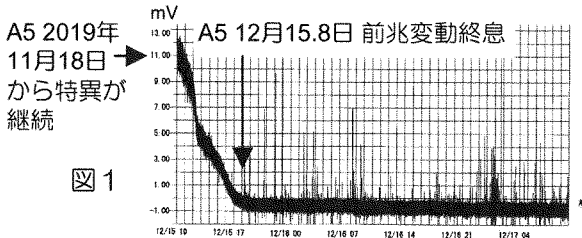


図1

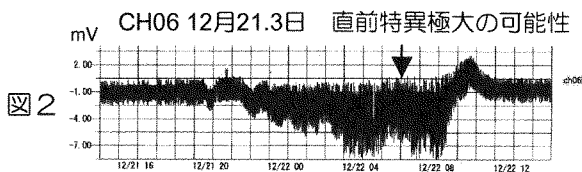


図2

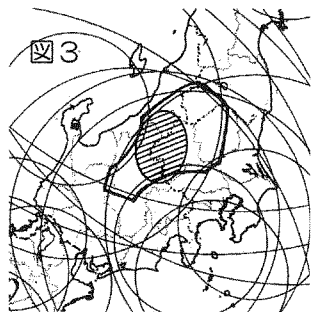


図3 No.1778前兆から推定される地震活動の内容

推定領域：左図斜線域付近  
推定規模：M7.8±0.5  
火山近傍の震源浅い地殻地震推定  
推定発生時刻：  
午前9時±1.5時間  
又は 午後5時±3時間

No.1778 長期継続前兆変動についての続報です。

前続報でNo.1778長期継続地震前兆変動について、最も早い場合の発生時期としては2021年03月03日±1の可能性が考えられることを報告させて頂きました。この認識が正しい場合には本年5月1日極大に対する前兆変動終息が、本年12月15日±1に観測される可能性が計算できるため、これを確認することが重要であることも報告致しました。

実際は、左図1波形のとおり、秋田観測点のA5が本年12月15.8日に前兆変動が終息したことが観測されました。A5は昨年11月18日から特異変動が継続しておりました。極大は本年5月1.5日認識です。初現2019年11月18日～極大2020年5月1.5日極大の関係を、 $T_{fap}:T_{map}=20:13$  経験則に当てはめると、2021年03月03日±1発生の可能性が計算できます。この5月1.5日極大に対し、12月15.8日終息の関係を  $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$  ( $T_{fap}:T_{pp}=6:1$ ) 経験則に当てはめると、2021年03月04日±1発生の可能性が計算でき、調和します。A5は本日現在も完全静穏直線基線を記録しています。

さらに左図2波形のとおり、八ヶ岳南麓のCH06に12月21日、特異変動が観測されました。CH06は昨年12月23.2日極大に対する前兆変動終息として本年11月10日に前兆変動が終息していました。このCH06に先日の12月21.3日に特異変動がやや大きく観測されました。この変動再出現を昨年2019年12月23.2日極大に対する直前特異の可能性と認識しました。直前特異は前兆変動終息後に短期間前兆変動が再出現する現象で、極大～発生= $T_{map}$ 、直前特異～発生= $T_{pa}$  としたとき、 $T_{map}:T_{pa}=6:1$  の関係が経験則とし

て認められています。この経験則に先の関係を当てはめると2021年03月04日発生の可能性が計算できます。

これらの関係から、No.1778長期継続前兆の最も早い場合の発生推定時期として2021年03月04日±1日が考え易いことになり、可能性がやや高まりました。

まだ完全ではありませんので、今後の変化も計算通りの時期に変化が観測されるか確認して続報させて頂きます。

参考：

12月21日発生の青森東方沖 M6.5-43km(最大震度5弱) (気象庁発表暫定値) は12月16日K6・K8にBF前兆変動極大観測から12月21日±2に北海道南部～東北沖でM6.7±0.5地震発生推定と12月18日配信の観測情報に記載。予測は成功しています。

